

---

# バルーン

クラウディア

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
バルーン

【Nコード】  
N9184A

【作者名】  
クラウディア

【あらすじ】  
父が研究していた奇妙な生物・・・その名は『バルーン』研究にかかわった全員が謎の死をとげる・・・父がそこまでしてのめり込んだ訳を知るために利一はバルーンの研究を始めた。

## 序章 僕は今・・・

バルーン

利一が初めてその名を耳にしたのはまだ4歳になる前だった。

8年前父に見せてもらった絵は今でも利一の中で強く印象にのこっている。

亡くなる前父は、『バルーンはもうすぐ完成する』『バルーンは世界を変える』と語っていた。

父は朝から晩までバルーンの研究にのめり込んでいた。

父が研究中に死んだと聞かされた時も、利一は父の気持ちがわからなかった。

父が死んでも完成させたかったバルーン・・・なぜそこまでしてバルーンにこだわるのか？

利一には、どんなに頭を捻ってもわからない問題だった。

何故なら利一には、バルーンがただの化け物にしか見えなかったからだ。

赤くて先が3つに分かれた帽子、細い目、身長は30センチほどしかなく、まるでピエロのような服・・・

生前、父は、一度だけバルーンの事を神だと言っていた。

しかし神の見かけとはかけ離れていた。

似ていると言えば、トランプに書いてあるジョーカーの絵の方がよっぽどにていると思ったほどだ。

- だけど僕は、愛と共にバルーンの研究を始めた -

## 第1話 もうすぐ・・・

ある日の昼下がり、利一は学校の屋上で昼寝をしていた。利一が目覚めると、知らぬ間に隣には愛が座っていた。

利一は愛を見ると慌てて体を起こして言った。

「あっ！ごめん。約束忘れてた！」

「もういいよ。明日にしよう」

そう言うと彼女はのんびりと上を見上げた。空ではゆっくりと雲が流れている。

彼女の名前は 二葉 愛（ふたば あい）彼女の父親と利一の父親は親友で二人でバルーンの研究をしていた。

亡くなった自分達の父親の後を引き継ぎ、今は彼女と僕で研究をしている。

「帰らないの？」

「兄さんの部活が終わるの待ってるんだ」

「有馬だったら・・・」そう言って愛が後ろを振り向くと、そこには有馬が居た。

「よっ！」利一が自分を見てる事に気が付くと、有馬は手をポケットに突っ込み利一に近づいてきた。

彼の名前は 有馬 龍之介（ありま りゅうのすけ）利一の実の兄だが生まれてすぐ養子に出されたためみよじが違う。歳は利一より二つ上で学校一の不良と騒がれている。

「何や、お前、約束忘れてたらしいやんか」

有馬は何故か昔から大阪弁だった。ここは大阪じゃないし、もちろん両親だって大阪出身じゃないのに・・・その謎は、利一ですらわからなかった。

利一は有馬には関係ない事だと、気を悪くしたが、悪いのは結局自分なので、有馬には何も言わず、愛の方を向いた。

「ごめん、愛、でも、明日でもいいでしょ？」

利一がそう言うと、愛は立ち上がって言った。

「私は別にいいけど、もしかしてあなた・・・」

利一と愛が家に帰ってきたのは日も暮れかけた夕方だった。本当は愛の家は利一の家隣だが、たいがいは利一の家にいる事が多かった。バルーンの研究の事で話し合いができるのも理由だが、やっぱり幼馴染だからだろうか？

二人そろって利一の家に戻ると小雨が夕食の準備を待っていてくれた。

今日は昼ごろには帰ると告げられていた小雨は少々ふくれつつらをしていた。

「二人とも遅いのですよ。おかげで計画が丸潰れなのですよ！」  
この子は、 岑枝 小雨 (みねぎ こあめ) 7才 母親が利一の父親達の研究の手伝いをしていた関係で、利一と愛の研究をたびたび手伝ってくれる。両親はすで事故で亡くなっており、今は隣町で祖父母と暮らしている。

「わー！おいしそうだね。これ全部小雨が作ったの？」

利一が席についたころには、テーブルには、色とりどりの料理が並べられていた。

「そーなのですよー。この僕、小雨ちゃんが腕によりをかけて作りました。本当なら今日はバルーンが完成した特別な日になるはずだったですからね。それが誰かさんのせいで・・・」

小雨は利一をジト目で見た。

「ごっ、ごめん・・・」 結局その日、利一は何度も謝らなければいけないはめになった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9184a/>

---

バルーン

2010年10月15日20時11分発行